

進路ニュース

平成26年6月30日
鳥取県立白兔養護学校
進路担当

平成26年度 第2号

蒸し暑い毎日ですが、児童生徒は水泳学習を楽しみにし、張り切って学校生活を送っています。今回の進路ニュースでは、中・高等部で実施した産業現場等における実習の様子を中心に送ります。

産業現場等における実習について

《目的》

- ・産業現場等における実習での体験を通して、社会人としての見通しを持つとともに望ましい職業観・勤労観の育成を図る。
- ・いろいろな職場や施設等の仕事や生活を体験することで、自分の適性や、将来について考える機会とする。

《期間》（今年度の予定）

中学部	2年	6/11～6/17（5日間）
	3年	9/4～9/10（5日間）
高等部	1年	10/7～10/21（10日間）
	2年	5/26～6/6、10/7～10/21（10日間 2回）
	3年	5/26～6/6、9/11～9/26（10日間 2回）

高等部2・3年産業現場等における実習

5月26日（月）から6月6日（金）まで、高等部2・3年生54名が実習を行いました。お世話になった事業所数は45ヶ所で業種も様々です。



2年生は校外での実習は昨年に続き2回目でしたが、1年生の時に比べ、体力がつき、自分の決めた目標の達成に向けて、10日間しっかり頑張ることができました。

「経験を広げ、可能性を探る時期」の2年生に対し、3年生は「進路先、進路方向を決める時期」で、実習先は焦点を絞っていきます。実習の内容も卒業後を見据えて、通勤、休憩、事業所の方との関わりなど仕事以外のことにも力を入れて取り組みました。

2年生、3年生とも事業所の方からお褒めの言葉をたくさんいただきました。一方、いくつかの事業所からは、今後もっと力をつけてほしいこととして、「積極性」「コミュニケーション力」ということを言われました。「自分の気持ちが伝えられるようになってほしい。」という指摘もありました。自分からあいさつをしたり、質問をしたりすることはもちろん、受け身の姿勢ではなく、積極的に人や仕事にかかわる力をつけてほしいと思います。そのために、日々の学習や生活の中で、生徒一人一人が自分に自信が持てたり、自分がやるべきことに意欲が持てたりするような指導を心がけたいと考えます。



（文責 副進路指導主任 絹見 睦美）

中学部2年生産業現場等における実習

6月11日から5日間、初めての実習を6か所の作業所で行いました。午前中だけの実習でしたが、働く上で大切なマナーや正確に作業するためには集中力が大切なこと等を学ぶ貴重な機会となりました。各作業所や保護者の方々の御協力のおかげで5日間の実習を無事終えることができました。生徒たちの振り返りは6月22日（日）の参観日で発表しました。今後の努力点も見つかりましたが、できた喜びを味わい自信につながったようです。



砂丘福祉作業所
かりんとうの袋詰め



松の聖母学園成人寮
小皿作り



ワークセンターラビット
箱の組み立て



はなます園
保冷ケースの
ピースはめ



かめの会作業所
金魚袋のひも通し



うぶみ苑
海苔の瓶の仕切り作り

(文責 第2学年主任 林 直樹)

卒業生フォローアップ

今春、卒業した卒業生が社会に出てから3か月が経とうとしています。この時期に各事業所を訪問し、卒業生の様子を伺いました。また、企業に就職して、ジョブコーチ支援を活用した卒業生については、職業センター、就労・生活支援センターしらはまなどの関係機関が集まり、ケース会議を持ちました。卒業生たちはそれぞれの進路先で新しい環境や仕事に慣れて、頑張っているようでした。

近年、卒業後1年以内に離職してしまう卒業生も見られます。自分に適した仕事についてしっかり考えたり、長く働く力を身につけたりすることが求められます。

※ジョブコーチ支援とは・・・鳥取障がい者職業センターが実施している事業で、就職や職場適応を目指した障がい者と事業主双方への支援を行うものです。作業や対人面等の職場定着上の課題の改善などを支援していただけます。

(文責 絹見)